

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	災害用備蓄品購入事業							担当部	市長公室						
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	危機管理課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	危機管理係							
	総合計画 分野別計画	主目的	1 市民生活		4 防災		2 防災体制を充実する									
		副目的														
	予算区分	款	9		項	1		目	5		大	4		中	2	
	根拠法令・個別計画	小牧市地域防災計画														
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	100 %			委託	0 %			助成	0 %					
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	大規模災害時、自宅が倒壊し避難所に来た人や帰宅困難者などのために非常食を備蓄することで災害時の混乱防止を図る。														
	内容 (手段)	<p>パークアリーナ小牧及び南庁舎地下1階の備蓄倉庫、避難所に指定してある各小中学校等の備蓄倉庫に非常食を保管する。 45,000食の非常食の備蓄を目標として、非常食の保存期限が5年であることから、毎年約8000食の買い替えを実施。 23年度は、東日本大震災により被災した地域へ救援物資の提供を行ったことからその補充と併せて、約15,000食余を購入し備蓄した。</p>														
受益者負担	無															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	1,647	1,647	2,771	1,800	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	531	531	531	531
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	2,178	2,178	3,302	2,331	
	対前年比	%		100.0	151.6	70.5		
財源	一般財源	千円	2,178	2,178	3,302	2,331		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	飲料水の備蓄(1本1.5ℓ) (単年度)	本	目標		160	160	160
実績				160	160	160	
非常食の備蓄(単年度)	食	目標		8,046	8,046	15,892	8,142
		実績		8,046	8,046	15,892	
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
			非常食の備蓄(累計)	食	目標	45,000	45,000
			実績	44,988	36,940	46,972	
飲料水の備蓄(1本1.5ℓ) (累計)	本	目標		800	800	800	800
		実績		640	576	576	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	45,000食の備蓄目標に対し、東日本大震災での支援物資の提供分と賞味期限による入替え分と併せて補充を行い、46,000食余を備蓄した。飲料水については、年度内の目標購入量を確保できた。なお、年度購入量160本を継続し、平成25年度には、備蓄目標数を確保できる予定。
	事業実施における課題等		45,000食の非常食備蓄を継続する一方で、大規模な災害が発生した場合、被災地域外から外部支援が入るまでには3日程度必要であるといわれており、その間、行政だけでは、すべての応急対応を行うことは困難であると考えられる。
	事業を縮小・廃止したときの影響		災害発生時の非常事態の中で、避難市民の生命維持に必要な最低限の食糧補給ができなくなる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	災害発生に備え、市民の生命を守る上で、備蓄目標の45,000食の確保は継続して取り組まなければならない。	
	改善案等	行政政だけでは、すべての応急対応を行うことは困難であると考えられるため、住民が相互に協力し、また、住民自らが、非常時の持出品の準備、3日分程度の食糧・飲料水、生活必需品等の備蓄に努めることなど啓発に取り組む必要がある。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。飲料水の備蓄が、毎年、目標値の800本に達していないので、常に800本を備蓄しておく体制とすること。